

しいのき



《企画展：台所—お勝手のいま・むかし：10月1日～11月14日：休館日＝月曜日・10月18日(日曜日)》

カマドの神様

名誉館長 三 隅 治 雄

日々の食事のおかげで人は生きるとあれば、食事をつくる炊事場こそ、人間の命の供給所です。煮炊きする火を神聖視し、その火床であるカマドに家人を守る神がすみたまうと、古来信じられてきたのもそのためです。カマドのそばに神棚を設けて、御符や御幣を立てておがむのが一般の例で、東北地方では、カマドの上や柱に神の仮面を掛ける例もありました。御存知の、火男訛ってヒョットコもその一類で、火を吹き起こす顔だといわれていますが、全般にこわい、みにくい顔の神だとされています。また荒神さまをカマド神とあおぐ地方も多く、これも名の通りのこわい神で、炊事場をきれいにし、食事をきちんと調理しないと怒ります。だから台所をあずかる主婦はこの神を毎日おがむことで、心を引き締め、それが家族円満のもとになったのです。

文化財よもやま話

大地に眠る歴史

シャモジ

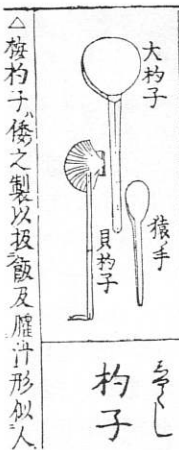
シャモジはシャクシやヘラなどとも呼ばれ今日でも広く使われています。またシャモジと聞いて主婦連を思い出す方も多いかと思えます。

ところで、シャモジが主婦連のシンボルとなる以前から、日本にはシャモジを主婦権の象徴とする認識がありました。例えば東北地方にはヘラトリという言葉が残っていますが、これはヘラ（シャモジ）を手にする人という意味で、主婦を指す言葉です。

時代によって差はありますが、日本では伝統的に、主婦は家族生活の上で重大な権限を持っていました。その一つが食物の分配、つまり家計の管理でした。食物の確保が厳しかったかつての農村社会では、限られた食物を豊富に、かつ無駄なく家族に分配することが主婦の技量とされ、これがしっかりできなければ家を滅ぼすことにもなりました。このため食物を分配する道具であるシャモジは主婦権の象徴として認識されました。

こうした主婦の権限は決して侵してはならないものとされ、また容易に嫁に譲渡されるものではありませんでした。嫁は結婚後も婚家や実家で労働を重ねながら経験をつみ、はじめて主婦としての権限が与えられました。このような主婦権の譲渡はヘラワタシやシャクシユズリなどと呼ばれます。多くは除夜の晩に姑が鍋の蓋に載せたシャモジを嫁に手渡し、主婦の座を明け渡すという儀礼を伴い、これ以後姑は隠居し、代って嫁が主婦として家計を切り盛りしました。つまりシャモジが姑から嫁に手渡されるということは、主婦権の移動を意味したのです。

このようにシャモジは家計の最高責任者である主婦の指揮棒としての意味を持っていました。冒頭で触れた主婦連のシンボルは、実は主婦とシャモジとの伝統的な関係を継承したものであったと言えます。

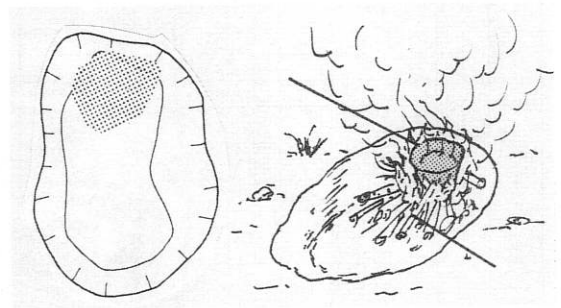


『和漢三才図会』より

台所物語2(炉穴)

富士山の噴火がおさまり、日照もよくなり温暖化した縄文時代早期(約10,000年前)には、今までの針葉樹にかわって広葉樹・落葉樹が繁るようになり、森の様子が一変しました。クヌギ、クリ、クルミなどの植物性の食糧資源が豊富になり、人々は土器を発明し、様々な食糧を煮て食べるようになりました。

土器を設置して、火の焚ける場所として考案されたのが炉穴(ろけつ・ろあな)です。これは地面を楕円形に掘り窪め、隅に土器を置いて、たきぎをそえて燃やして使いました。炉穴は徐々に拡張して使われたので平面形が複雑な形のものが多いのです。



▲炉穴 左：遠藤山遺跡4号炉穴 右：使用想像図

当時は、まだ竪穴住居の構造も単純なものでしたので、住居内で焚火をしますと火事になってしまいます。そのため炉穴は屋外につくられていました。また、土器用の炉穴の他に、前の時代に発明された集石炉もこの時代にも使われていました。やがて、縄文時代前期(約6,500年前)になると、竪穴住居の構造も改良されてしっかりとしたものになりました。それまで屋外にあった炉穴も住居の中央に設けられるようになりました。これを屋外の炉穴と区別して炉(ろ)と呼びます。

その後、炉は、石で囲んだ炉(石囲炉)、甕を埋めた炉(埋甕炉)など、土器を置きやすいように改良が加えられ、縄文時代を通じて、台所の中心として機能してきました。

この間に集石炉は、縄文時代前期いっぱい使用されましたが、それ以降は衰退していきました。

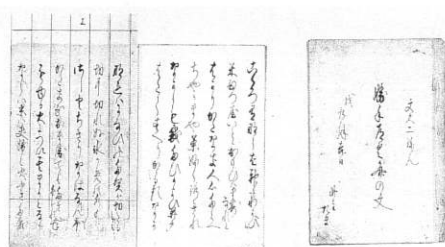
古文書つづり

文久2年「勝手道具文の文」

当館所蔵の山崎家文書のなかに、一風変わった「勝手道具文の文」という、文久2年(1862)9月吉日の日付と所有者名が記された、往来物の一種とおぼしきものがありました。読み方は、勝手道具「ふみのあや」とでも読むのでしょうか。女性向けの手習いの手本を書写したもののようです。

内容は、「はつかしなから、硯にむかへ、すみとりや、かまとの前の、はいかきならしける、いつ

▼ 山崎家文書「勝手道具文の文」



そや出替りの折からに、なかし元にて、すいのふの、御方とちらとみそ……」と、炭取り、かまど、灰かき、流し、すいのう、味噌などの色々な勝手道具の名前を折り込んで始まります。そのあとには七輪、なべ、雑巾、秤、うす、包丁のさび、深手桶、消し壺、はし、どびん、しゃくし、米びつ、梘、茶がま、茶袋、井戸端、水かめ、焚き付けなどを折り込み、「もゆる火に、ついそのままとなか(仲)ならば、米ハ夫婦の火ふき竹、二人がなかの頼しみハ替らぬ望の、すりはちや、まはらぬ筆のすりこぎなれば、まつはくわはらへ、めて度、かしく」と結んでいます。

全体は、一日惚れの恋にはじまり、夫婦になっても変らぬ想いを、勝手道具を使う所作で形容して綴った言葉遊び風の文章となっています。当時の「手習い」の多様さがうかがわれます。

また、これには紙を綴った間に、罫を引いた下敷の紙を挟み、行頭と行末を揃えたり、一行ずつ曲ることなく写す工夫がされています。これは手習いでは一般的なことだったようです。

台所展点描

台所の改善—快適な空間へ

長い間、台所は北向きの暗くてじめじめした場所にありました。明治維新における文明開化の波がおしよせても、台所の様子はほとんど変化はみられませんでした。それが、第二次世界大戦後における、急激な社会的・経済的变化にともない、住居の中心で日が当たる快適な場所へと変わっていったのです。

その要因として、まず、ガス・電気器具の一般家庭への普及が上げられます。実際には、ガスも電気もかなり早くから台所用として販売されていました。明治5年に照明用として始まったガスは、明治30年代に入ると台所の中でも調理用熱源として用いられるようになります。ちょうどこの時期に、最新式のガス器具を導入した大隅重信邸の台所は、上流社会の理想的な台所として当時の話題となりました。一方、昭和5年に電気冷蔵庫が登



▲ガス・電気が普及する前の台所
(『東京風俗誌』明治35年)

場しますが、当時の金額で家が一軒買えるほど高価な物でした。このように、高所得者ほど早くからガス・電気器具を導入していますが、家庭用熱源として薪炭より多くなっていくのは昭和30年代以降です。長い歴史の中でガス・電気が家庭まで普及していったのは、つい最近のことでした。

この他にも、ステンレスの流しを取り入れた公団住宅の流行、上水道の普及、女性の地位向上などさまざまな要因が重なって、台所を快適な空間へと変えていったのでした。

事業報告

入館状況

1992年7月～9月 (75日間) (人)

一般	行政視察	学校教育	合計
9,427	108	165	9,700

1991年10月～1992年9月 累計(295日間) (人)

一般	行政視察	学校教育	合計
40,254	618	3,698	44,570

各種事業経過

1992年7～9月

事業名(内容)		期間
企画展示	伝統工芸展 : 中野区伝統工芸保存会共催	8/18～8/30
文化財調査	鷺宮地域民俗調査 : 文化財調査員	4/1～継続中
その他	学芸員実習 : 5大学(8名)	7/28～8/9
	郷土学習相談室 : 区内小中学校教諭、館員	8/18～8/21
	全館消毒・清掃 : 臨時休館	9/19～9/21



▲ 展示企画を練る一学芸員実習一

寄贈資料一覧

1992年6月19日～8月30日
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
『東西職人図会』	1	大木 正信
根付、棒秤、提灯、鳶(とんび)	3	猪田 尚宏
十能、火おこし	2	杉田 薫子
御嶽講装束他	6	白井千代松
印はんでん、化粧道具	5	横山登美子
算盤、根付、皮財布	3	堀野 しげ
羽釜、鉢、こたつ他	32	窪寺 よみ
たらい	1	奥泉 正一
鳶、食器棚、麻ひも	3	早水 幸一
ケース入り雛人形	1	沖山 敏夫
着せ替え人形他	一式	沢田千鶴枝
防空頭巾他	1	細野美保子
木槌、金爪、ナタ	3	隅井 嘉澄
防空頭巾、ジャー他	5	井出 浄
戦前の教科書、雑誌他	一式	斉藤 甲子
犬張子、破魔弓、茶釜他	18	斉藤 金造

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

NEWS

※さきに中野区の指定文化財となった江古田村名主家「堀野家文書」(江原2丁目堀野新治氏蔵)が、このほど歴史民俗資料館に全点寄託されました。

※新テレホンカード(50度数、700円)が出来ました。図柄は、江古田の山崎家に伝来した館所蔵の江戸時代のお雛様、丸顔がかわいくも優雅な次郎左衛門雛一対です。

NEWS



▲ 頑張ろう!! -夏休み郷土学習相談室-

発行年月日 1992年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 4中教社社第7号)